

本稿は、8月28・29日に行われた自治労連第44回定期大会での代議員発言について、加筆・修正したものです。

「県域水道一体化」反対のとりくみと 「誇りと怒りの”3T “アクション」について

奈良自治労連

奈良県の県域水道一体化反対の取組と、「誇りと怒りの”3T “アクション」について発言し、討論に参加します。

県域水道一体化に向け、県は、11月第3回協議会で基本協定案提案、来年2月締結、その後、法定協議会・企業団設立、2025年度に事業統合・水道料金の統一化が行われる予定です。いきなりの料金統一は全国初です。

奈良市は、県から詳しい情報提供がないので、独自に懇談会を設置しました。料金面では、「単独でも安い。メリットはほぼない」との結論に至りました。県の部会では、災害時のバックアップ体制や水質の事は提案していません。懇談会委員から依頼されたのに、県は説明に来ません。パブリックコメントも考えていません。内容もさることながら、決め方への憤りが広がっています。

一体化反対の運動の中心は「奈良市の水道問題を考える市民フォーラム」です。奈良1区市民連合や脱原発市民の会など幅広い人たちです。アピール「奈良市100年の水道を大切に想う100人委員会」の呼びかけ人は26人、賛同者は190人を超えました。22日の記者会見はNHKの地域ニュースでも放映されました。

慎重姿勢の市会議員に反対に回ってもらおうと、すでに無所属の3人の議員と懇談しました。市議会への陳情書は、42人分を提供します。（※9月8日定例会市議会へ60人分を提出しました。）9月3日には、シンポジウムを計画しています。チラシは3万枚配布し、宣伝カーも運行します。（※シンポジウムには280人が参加、感想文40人、カンパは12万円集まりました。）現在、署名ハガキ付チラシを5万枚、作成中です。すでに署名していただいた方にも、配布協力をいただきます。（※10/11現在662通返信）市民と野党の共闘の具体的な取り組みが広がっています。市民フォーラムの方は、「自治労は反対しないんだって」、「なぜ反対しないのかな？」と聞いてこれ、市民と共に運動する自治労連の姿が光っています。

水道の広域化は、現在全国各地で進められています。民間委託は、まだ宮城県だけのようですが、広域化すれば民間委託は簡単ですから、ここで止めなければなりません。自治労連としても、公営企業評議会だけの取り組みにとどめず、議案書28ページ右下③「2040構想」の具体化を許さない取り組みに位置付けていただけたらと思います。（※10/5 奈良

市長が県域水道一体化に不参加を表明。詳細は10月7日付速報6970号を参照ください。）

次に「誇りと怒りの“3T“アクション」についてです。

「ほこイカアンケート」は、会計年度任用職員がいる全単組368人から、集めることができました。自由記述は43%。QRコード回答では50%以上になり、匿名の有効性が伺えます。紙ベースでも、奈良市水道労組は一人一人に返信用封筒を付けてアンケートを配付し、半数以上が返信してくれました。「実態レポート」づくりの「しゃべり場」を、氏名記入者に個別にお誘いもし、2人が来ていただきました。職場は違うので、話すのは初めてだったと思いますが、仕事の事、職場の人間関係、3年目の雇用不安など話してくれました。

取り組んだ組織拡大強化推進員は、次のように話しています。「『ほこイカアンケート』をしてすぐの『しゃべり場』の設定に、ハードルの高さを感じていた。『実態レポート作成にご協力ください』と実際に集まってもらったら、内容を深掘りすることができた」とのことです。奈水労は会計年度任用職員を組合に迎えていません。毎年役員が代わり、その役員も若手が担っているので、通常の組合活動で精一杯ですが、アンケート配付や「しゃべり場」へのお誘いなど、協力してくれました。会計年度任用職員が、50歳代から60歳代が多くと自分たちの親世代でなかなか普段は気軽に話せていないようです。「“3T”アクション」が橋渡しになっています。全単組で、最低1回の「実態レポートしゃべり場」開催を追及したいと思います。

また、未組織の3つの市の学童保育職場へ「アンケート」協力で訪問し、受け取りに行

きました。180枚配付して、回収は53%、うち自由記述は32%、氏名記入は12人です。アンケート集計のお返しを兼ねて、「実態レポートしゃべり場」を各市で取り組み、市役所担当課とも懇談しようと計画しています。組織拡大推進員は、「こんな取り組み、資材を待っていた」という思いです。直ちに組合加入・結成には至っていませんが、つながりを作ることで量が質に転嫁する機会を待ちたいと思います。